

## 第 45 回支援連絡調整会議 議事録

日 時：2017年3月14日(火) 10:00~12:00  
場 所：陸前高田市コミュニティホール 中会議室  
出席者：12 団体 17 名  
文 責：佃（事務局）

### 1. 事務局連絡

➤ まちづくりプラットフォームのリニューアル：陸前高田 NPO 協会

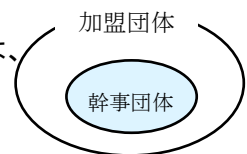
まちづくりプラットフォーム（以下 PF）を前身に、「陸前高田 NPO 協会（以下 NPO 協会）」となる。PF は 3 月末で終了（登録も終了）し、NPO 協会へ移行するのでそちらへの登録をお願いしたい。現在、PF 運営委員会とは別軸で NPO 協会の準備会として話を進めている。既に登録を考えている団体から詳細説明をする。

➤ 協働センター（三浦さん）より

「NPO 協会」は、PF を少しリフォームしたもの。現在、どのようなミッションをもってやっていくのか等を、コアメンバー（6~7 団体）が準備委員となり進めている（資料解説）。“復興の、その先を見据えて”とは、復興支援すべてが終了したわけではなく、まだまだ支援が必要だが、“復興の先のまちづくり（普段の暮らし）を見据えた地域の持続性を高めていきたい”というところが大目標。

※成果目標は、まず 3 年後に設定している。（適宜変更）

- 名称：陸前高田 NPO 協会
- 対象：“NPO”とは、法人に限らず市内で活動するまた活動を予定している団体および個人
- 登録（入会）：任意の登録制。登録は PF の時よりシンプル（別紙参照）。
- 運営方法：事務局を置くが PF 人数縮小。加盟団体から更に手あげ制で幹事団体を選出し、幹事団体が大きく動く。
- 運営費：今後の継続性を考え、加盟団体で捻出していく。  
幹事団体 3 万円／年、加盟団体 5 千円／年の予定。  
※NPO 協会としては初年度で実績もないため、平成 29 年度は、幹事団体のみ会費を回収し、加盟団体は免除（無料）。
- 今後のスケジュール：（次第を参照）



※詳細は別紙参照。質問等あれば、事務局に遠慮なくご連絡ください。

<質疑応答>

➤4 月から自主開催する会議と NPO 協会の紐付き方は？（ひまわりハウス・浅川）

- ・自主開催の会議。幹事団体も参加する予定なので、内容共有はしたい。（PF 事務局・酒井）
- ・PF のメーリングリストを継続とお伝えしてきたが、NPO 協会の新しいメーリングリストに変更する。年度毎に登録更新し、更新のない場合はアドレスを削除することになる。

情報のやり取りを希望する場合は、必ず登録していただきたい。必ず期限までに入会届を提出していただきたい。(協働センター・三浦)

※PF メーリングリスト (rikutaka-net@googlegroups.com) は 5 月末まで使用可能。NPO 協会メーリングリストは 6 月 1 日から開始予定。

- ・ NPO 協会への加盟と幹事団体参加を検討中。4 月以降の会議はあくまで自主開催の認識。この会議で出たものを実行するにあたり、同協会を利用すればいいのではないかと課題は出てもアクションにつながらない問題を解消するために、成果目標③「課題解決のために分野を横断した協業…」が活用できるのではと期待している。(パクト・桑久保)

➤正直まだイメージが湧かない。3 点質問。(遠野山里暮らしネットワーク・林)

- (1) 岩手や宮城の沿岸部で、このように発展的に組織替えをする前例があるのか？
  - ・ おそらくない。PF のような組織自体が多くないのではないかと。(協働センター・三浦)
  - ・ ない。(IFC・葛尾)
- (2) 成果目標②「多様で対等な協議の場が提供され」の協議のテーマは？今は NPO 団体が中心だが、住民や陸前高田市や商工会議所などとの接点が増える活動になるのか？
  - ・ NPO 同士もあるし、行政(担当課)や商工会など NPO 以外の方々と話し合うような場を設定したいというイメージをもっている。(協働センター・三浦)
- (3) 法人格を目指すのか？
  - ・ 今のところないが、この先必要に応じて目指す可能性もある。(協働センター・三浦)

➤住民との関わりは？(遠野山里暮らしネットワーク・林)

- ・ 住民と一緒に何かをやっていきたいイメージはある。当然、住民も一緒に協議できる場の設定もできればいい。優先的には住民が一番、次に行政という位置づけにしている。(協働センター・三浦さん)
- ・ 加盟団体の提案でいろいろ取り組んでいける。(PF 事務局・酒井)

➤この会議で顔を合わせることで、ニーズのマッチングや連携が生まれるなど、さまざまな効果があった。新組織も、メーリングリストだけでなく実際に顔を合わせて話をして発展させていける場があると良い。登録団体が一堂に会する場を設ける計画はあるのか？(ハマトラ・篠原)

- ・ 細かい部分は議論中だが、NPO 同士が顔を合わせる場が 1~2 回/年くらい必要かもしれないという話は出ている。(協働センター・三浦)

## 2. 活動報告

➤ 各団体より活動報告、今後の予定などを共有(全体)

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 各団体より 2 月以降の活動報告、連携報告、協力依頼およびイベント告知。</li></ul> 質問あれば適宜。各団体 2 分程度で報告。 |
|--|

※以下発表順、団体および発表者敬称略に記載

※発表の順番は第 45 回支援連絡調整会議参加者名簿に準ずる。番号は名簿の番号を記載。

◆活動報告

1	大船渡地域振興センター／米内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3/11（土）今年度から大船渡に着任し、陸前高田の追悼式に初めて参列した。</li> <li>・被災者相談支援センター2月相談件数：相談員対応 79 件、専門家対応 16 件の合計 95 件。昨年度 99 件とほぼ同数だが、専門家対応が昨年 8 件から増加。再建意向未定者（陸前高田は 32 世帯）へのアプローチを市や支援団体と連携しながら行っている。</li> <li>・配布資料の「被災者相談支援センターだより No. 53」、「いわて復興だより」をご覧ください。</li> </ul>
2	NPO 法人 陸前たがだ八起プロジェクト／池田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3/11（土）モビリアの展望台で追悼式。モビリアの仮設住民や元仮設住民、名古屋の方など約 40 名が献花。式の後はお茶っこを行った。</li> <li>・モビリア（軽体操）クラブ、編み物サロン、ぬいっこ、健康マージャン、ふれあい畑などの活動を継続。</li> <li>・3/25（土）に大人の遠足を行う予定（今回は奥州市）。小友町内のみ案内を回覧、現在の申込みは 75 名。</li> </ul>
3 ～ 4	もっちいと森の仲間たち／望月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/14（火）食飲会議@二又復興交流センター。14 名参加。</li> <li>・下和野災害公営住宅を出て再建した夫婦から、畑づくりをやりたいと依頼があり対応。</li> <li>・ヤルキタウンで梅の木の剪定を手伝った。</li> <li>・岩泉：1 階が流された家が多いが修復が進んできたので、家具の要請に対応（洋服ダンス等）。仮設にはヤルキタウンからの座布団を支援。復興は遅れ、東日本大震災の教訓が活かされていないと感じる。隔週で現地に行く予定なので、行きたい方は連絡をください。</li> <li>・3/9（木）森の前の花壇づくり同窓会@花巻の大沢温泉。北陸学院大学の学生含め約 26 名が参加。</li> <li>・3/15（水）：北海道の 2 人組のコンサート@ジョニー、3/16（木）矢作の旧診療所跡地仮設で開催予定。</li> <li>・県営栃ヶ沢アパート：副会長の中川さん（元西風道仮設の区長）から、みなさんの協力がなければやっていけないと聞いた。住民から花壇や畑をやりたい声がある。大船渡の夢商店街で使わなくなったプランター等を活用して花壇を考えている。畑の場所についても模索中。</li> <li>・NPO 協会は、あたたかく見守りたい。</li> </ul>
5	市教育委員会 生涯学習課／森下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広田小学校でのボランティア募集（別紙参照）：広田在住の方が対象。周知協力をお願いしたい。</li> </ul>
6 ～ 7	NEC ネットエスアイ（ひまわりハウス）／村上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3/14（火）～4/2（日）くぎこ屋さんの「3.11 東日本大震災を忘れない写真展！」を開催@コミュニティホール。是非ご覧ください。</li> </ul>

8	いわて生活協同組合／池田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くぎこ屋さんの写真展に協力。是非ご覧いただきたい。(週末には語り部もあり)</li> <li>・3/11(土)いわて生協内陸の全店にて、組合員やボランティアで募金活動や復興商品を販売。14:46に全店で黙祷。風化が進むと言われるが、まだたくさんの方が協力してくれている。県内で復興商品を作るグループ「Colle-Color(コレカラ)」(複数の団体で構成)から3団体がいわて生協の店舗内で商品を販売。昨年よりも売り上げ増加。</li> <li>・全国の生協から募金が届いている。3月は大きな額だった。まだ忘れず全国の皆さんからご支援いただいている。</li> </ul>
9 ~ 10	認定NPO法人 遠野山里暮らしネットワーク／林、小澤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2~3月、陸前高田と大槌を中心に活動。</li> <li>・編み物講習会：中田災害公営住宅で、月3回を目安に現在まで5回実施。近隣住民にも声をかけ、編み物をきっかけとして、住民だけでコミュニティづくりができるようにサポートしていきたい。今月の作品は3/25(土)~26(日)「おらほアート展 in 陸前高田」@コミュニティホールに出展予定。是非見に来てください。</li> <li>・法政大学のボランティア「チーム・オレンジ」の春のスタディツアー：中田災害公営住宅と滝の里仮設でお茶っこや視察をコーディネート。今夏には12~13人グループが4回連続で来る予定。</li> <li>・大阪パルコープ：3月に職員が研修に来る予定。</li> <li>・関西3生協：4/1(土)陸前高田 4/2(日)大槌で活動予定。</li> </ul>
11	NPO法人ハマトラ横浜フットボールネットワーク／篠原	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3/11あたりは関東地方でもいろいろなことが取り上げられたが、一過性で引くのも早いように感じる。離れていてもできること=「発信」は、今後も継続したい。</li> <li>・NPO協会への関わり方は、持ち帰り団体内で検討。</li> </ul>
12 ~ 13	いわて連携復興センター／葛尾	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/17(金)第2回東京交流会:NPO、企業、スタッフ等 約70名参加。</li> <li>・3月をもって退職。今後も陸前高田に来ることがあるので、引き続きよろしく願います。※後任は高田真理子さん</li> </ul>
14 ~ 15	特定非営利活動法人パクト／山田、桑久保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートステーション：2月のボランティアは約150名。内容は、5月から始まる高田松原の植栽に向けた準備の手伝い、漁師(ワカメ)や農家の手伝い。月に2~3回の古川沼での遺留品さがしは、年度が変わるので県にお願いして継続したい。神奈川大学が今週で活動終了(220回目)。学生は、個人での関わりやサークル立ち上げ等、前向きな発言もある。その他、岩泉のボランティアとの交流もある。</li> <li>・二又復興交流センター：2/14(火)食飲会議の会場として活用いただいた。3年ぶりの開催だが、前回よりも参加者増。今後も、このような場として提供していきたい。</li> <li>3月に入り大学生が増えてきた(最近だと青山学院大学や岩手大学)。活動を終了する大学もあれば、継続する大学もある。4月にはグロー</li> </ul>

		<p>バルキャンパスができるので、新たに入ってくる大学もあると思われ、連動していきたい。</p> <p>・今後の動き：子ども支援事業はリニューアルし4月以降進めていく。その他、新規事業も行う予定。</p>
16	陸前高田市復興支援連絡会／島倉	<p>・3/25（土）～26（日）「おらほアート展 in 陸前高田」（共催 Home of wisdom）。住民の手芸作品等を集めて展示する。趣味を通したコミュニティづくりを広げたい。当日は、開催のきっかけとなった神戸の「おかんアート展」の方々も来るので、地域間交流の場にもなってほしい。</p>
17	陸前高田まちづくり協働センター／三浦	<p>・市民会議：2/26（日）カラオケまつり開催。約200名参加。主催側の住民も参加者も楽しめた。本日振返りを行い今年度は終了。来年度も地域づくりの場づくりとして継続予定。</p> <p>・栃ヶ沢アパート自治会形成支援：複数団体が関わりサポート。3/17（金）に自治会設立総会開催予定。そこで正式に自治会役員が決定。今後は自治会運営のサポートも行いたい。</p> <p>・中心市街地のにぎわいづくり：4月末のアバッセグランドオープンに向けて、いくつかのプロジェクトチームを作って準備を進めている。皆さんに協力を依頼する際はよろしくお願ひします。</p> <p>・今後の動き：体制等変更はなく事業を継続。</p>

### 3. 討議・意見交換

➤ 「連携・協力・サポートに向けた情報の整理および意見交換」

○全体での意見交換

**【災害公営住宅へのサポートはよく聞かすが、統合されていく仮設住宅が置きざりになっているように感じる。手薄なところの支援を考えたい。】**

- ・財当仮設では、仮設間移動により知人がいない状況となり、住民の依頼を受けて一度中止していたお茶会を、コミュニティづくりのきっかけとして復活した。
- ・要谷仮設や上長部仮設では（解体が決まっている）、コミュニティのつながりを消さないようにとの住民の声を受け、地域の公民館を利用したお茶会やコミュニティづくりの場を住民と一緒につくっていききたい。
- ・来年度は、見守り活動の一環として傾聴や戸別訪問等個人への活動に力を入れたい。
- ・仮設を取りまとめていた人たちが出たその後が心配になる。何かサポートをするために連絡会の支援員さんが拾った困り事、ニーズ等をつないでもらいたい。
- ・支援員も人数が限られているため見落とす部分もあると思う。住民の課題やニーズの解決に向けて、つながりのある方々と連携し相互に相談しながらやっていきたい。
- ・モビリア仮設でも徐々に住民が減り、取り残され感が大きい。元々は小友町町で行っていた自治会は、今は元高田町や元気仙町の住民が担う。変遷はありながら続いている。
- ・仮設住宅はモビリアと滝の里工業団地仮設が最終集約地の予定だったが、広田は広水仮設、米崎は米崎中学校仮設、横田町は横田小学校仮設にと町毎に集約の様子。



- ・小友は、防災集団移転や災害公営住宅の整備が終了しており、町内の仮設住宅が撤去しても一気に増えることはないと予想。今後は、防災集団移転の公民館等を上手く活かして、気軽に集まれる小さな拠点をたくさんつくっていきたい。
- ・神戸の生協の方から、仮設から早く出る人は生活力のある方（自立できる方）、最後まで残る方は社会的になかなか適応できない、またはヤクザものという経験談を聞いた（表に出ない話）。関西と岩手では地域性が違うが共通する部分も感じた。いわて生協は、仮設住宅に人が残る間は支援を続け、残る人、残らざるを得ない人の見守りをやっていく。
- ・横田では、残る世帯が少ない小さな仮設は本当に淋しい。立地的にも目立たない場所があり、防犯上の問題も出てくるのではと感じるほど。今後は横田小学校仮設に移ることになると思うが、住民から「仮設から仮設への引越しはただ悲しい気持ちがあるだけだ」と聞く。新しい家や建物への引越しで希望があって前に進むのと違い、体力とお金を使うがひとつも楽しくない。まだ再建されていない方の中には、そうした重苦しさある。

Q. 仮設から仮設に引越す人はまだ先が決まっていない？

→大槌では、先が決まってまだ建設ができない方は暗い雰囲気ではなかった。

→先が決まっていない人。

- ・陸前高田は2,060戸の仮設建設、1月31日時点で873戸2,189名が入居。意向未確認が32世帯。生活支援とコミュニティ形成支援の2つが必要。生活支援は、社会福祉協議会の生活支援相談員が月1回見守り実施。連動して復興支援連絡会も行っている。
- ・東北3県の知事が出演した日曜討論で、「仮設に住民が留まるのはなぜか」に対して岩手県知事から明確な答えが出なかった。陸前高田の場合、共用期間の満了する平成30年8月までは居住可能。区画整備事業が遅れているため、特定延長が認められることもある。
- ・同じ地域にあっても横田町と横田中交流はなかった。子どもたちは、自分たちの仮設住宅でないところにはあがたらいけないと（失礼にあたる意味含む）言われていて、説得するのが大変だったくらい“違うところ”という垣根があった。
- ・横田は住民の出身地区がバラバラ。集約で次に行く先で元々の地区の方が多く、顔なじみの方が戻ってくると前のように仲良くできるけれど、単純に横田中から横田小への移動だと全然違う、寂しいという感じだった。
- ・私たちは被災者に寄り添ってなんぼという価値観できている。困っている人とその中身に深く、近い立場で寄り添っていく必要があると思う。堅苦しくないアンケート、顔見知りの人の聞き取りなど、NPOが独自のやさしいアンケートで心を集約するようなことをやった方がいい。特に仮設住宅に残っている弱い方々の意見や話をたくさん聞いて孤独死などが起こらないようにできたらいい。
- ・仮設住宅から夏から秋にかけて草刈りボランティアニーズが入る。連絡会につないでもらいニーズは増加。モビリアは広いので、学校単位で紹介できる（多い時は200人）。
- ・自治会長だった人が仮設を出るとニーズがあがってこないのが、連絡会の支援員が廻る中でコンタクトをとっている。和野仮設の自治会長は出た後も心配してたまに戻ってきていて、ボランティアが入る際は立ち合ってくれる。

- ・中和野仮設では元気なおばあちゃんたちができることは自分たちでやっている。作業をお願いされ対応したら、お茶っこやおつまみを持って応援に来てくれる。作業はかどらないが、欲している部分があるのだなと感じる。仮設から出られる方（特にお年寄り）が、自分たちが住んだところをきれいにして返したいと、引越しの後の清掃の依頼がある。2月も米崎中学校仮設で2件あった。そういう場面でも鍋焼きを焼いてくれることがあり、これも交流なのかなと思っている。
- ・支援連絡調整会議を継続してきたことで、それぞれの団体の特徴や得意分野、強みを知り、つなげることができるようになった。形が変わっても、情報発信しつつニーズの声をあげる等、顔が見える状況を続けていけたらと思う。

#### ○各グループの4月以降の動きについて

##### <1G 地域・コミュニティ>

新年度は、第2火曜日 10:00～朝日のあたる家で自主開催。

次回：4/11（火）10:00～

##### <2G 子ども・教育／女性・子育て>

新年度は、子ども支援ネットワーク会議に参加。

1G・3Gの開催日程が決まっているので、そちらに参加させてもらうこともあるかもしれない。

##### <3G 商工・観光・産業・その他>

新年度は1Gと同様。

開かれた場なので、どなたでも参加可能。

## 4. その他

特になし